

原木・製品生産のアンケート結果等 (近畿中国地区)

令和2年10月
林野庁

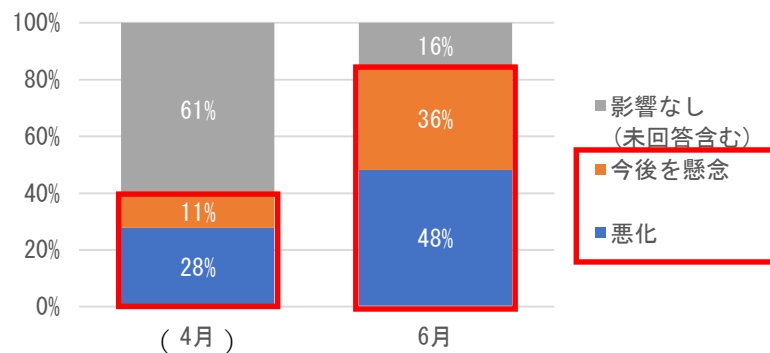
1 原木生産（全国）

素材生産事業者を対象に6月の状況について調査（回答数256）を実施したところ（4月の回答数は228）

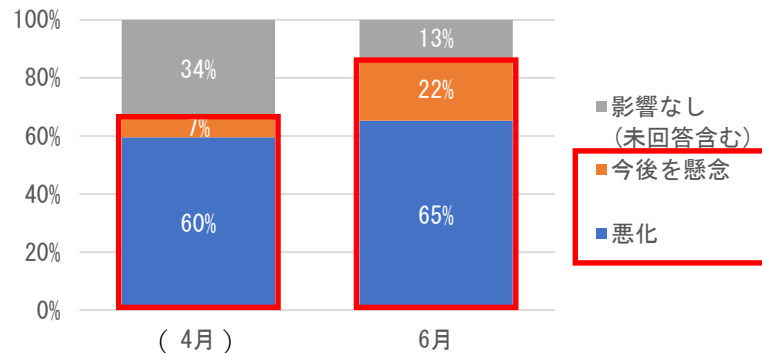
- ・ **出荷数量の動向**について、**悪化または今後を懸念していると回答した事業者が約8割**であり、4月から4割増加。
- ・ **販売価格の動向**について、**悪化または今後を懸念していると回答した事業者が約9割**であり、4月から2割増加。
- ・ 8月の時点では需要の回復が見込めず、工場の減産、原木価格の下落が続くことを懸念。

○出荷量・販売価格状況

■ 出荷数量の動向（前年同月比）



■ 販売価格の動向（前年同月比）



■ 8月時点の情報

【現状】

- ・ 製材工場等における原木の受入制限や原木価格の下落を受け、販売量は減少。
- ・ 一方、7月豪雨の影響により、九州地方では出材量が減少し原木価格が反発。
- ・ 燃料用材の需要は堅調。

【見通し】

- ・ 先行きは不透明。
- ・ 需要の回復が見込めず、工場の減産、原木価格の下落が続くおそれ。
- ・ 豪雨の影響による原木価格の反発は一時的とみられる。

1 原木生産（全国）（つづき）

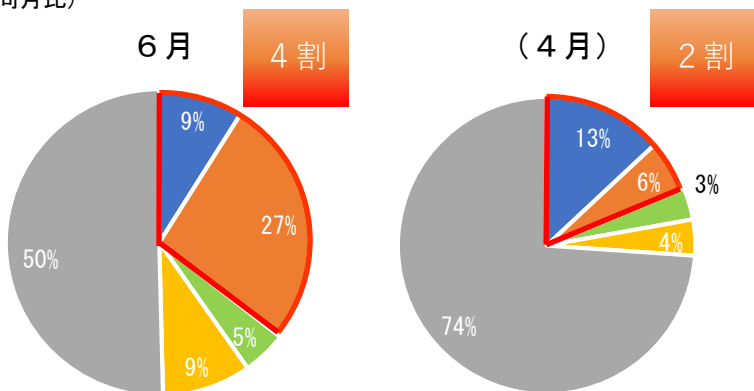
- ・生産状況について、減産していると回答した事業者が約4割であり（4月比2割増）、減産割合も「20%以上」が増加している。
- ・雇用確保のため素材生産の代替として、造林・保育へ移行（51%）、皆伐から間伐へ移行（38%）している。
- ・また7月以降、約3割の事業者が減産を実施予定と回答。

○生産状況、雇用

■生産状況（前年同月比）

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上

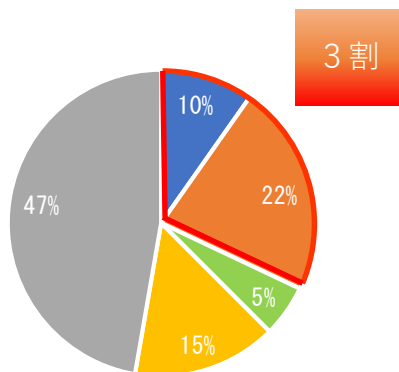
- 増産
- 変更したいが困難
- 増減なし（未回答含む）



■7月以降の生産状況（予定）（前年同月比）

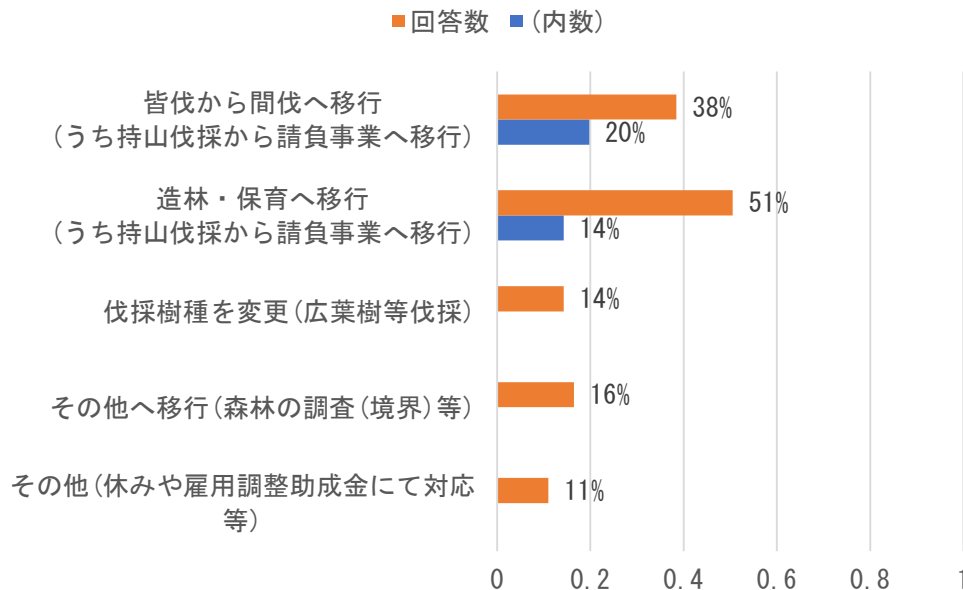
- 減産 20%未満
- 減産 20%以上

- 増産
- 変更したいが困難
- 増減なし（未回答含む）



■作業の移行状況

（減産を実施している事業者の回答）（複数回答有）



■8月時点の情報

【現状】

- ・販売状況の悪化や7月の長雨（豪雨）の影響に伴い、生産量は減少。
- ・生産に伴わない作業へ移行し雇用を確保している。

【見通し】

- ・先行きは不透明。
- ・経営状況の悪化が懸念される。

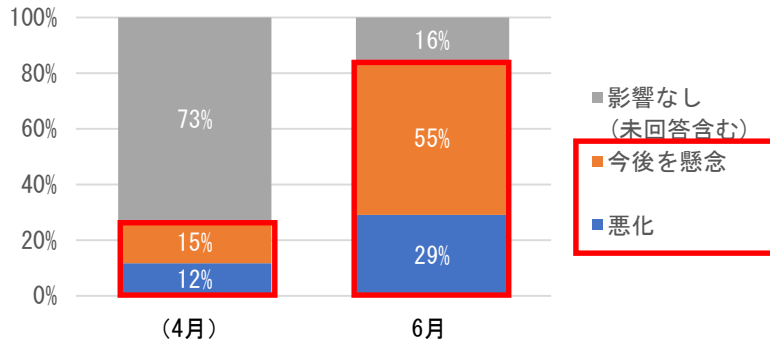
1 原木生産（近畿中国地区）

素材生産事業者を対象に6月の状況について調査（回答数62）を実施したところ（4月の回答数は60）、

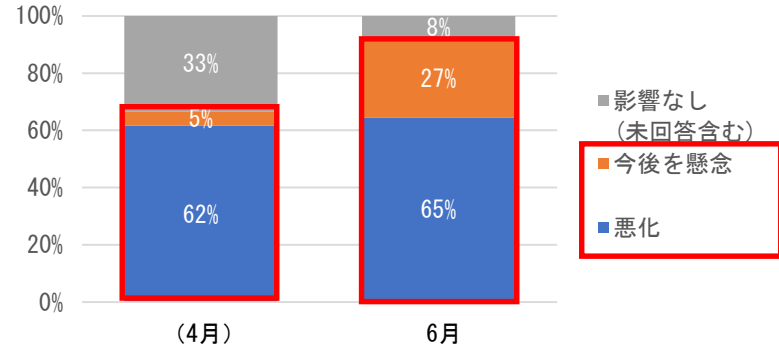
- ・ **出荷数量の動向**について、**悪化又は今後を懸念と回答した事業者が約8割**であり、4月から5割増加。
- ・ **販売価格の動向**について、**悪化又は今後を懸念と回答した事業者が約9割**であり、4月から2割増加。
- ・ 8月の時点では、製材工場等は**減産態勢を継続**。今後もさらなる**原木価格の下落が懸念**される。

○原木の出荷・販売状況、売上げの動向

■ 出荷数量の動向（前年同月比）



■ 販売価格の動向（前年同月比）



■ 8月時点の情報

【現状】

- ・ 製材工場等は**減産態勢を継続**。
- ・ 原木の販売はできているが**価格は下落**。

【見通し】

- ・ さらなる**原木価格の下落が懸念**される。

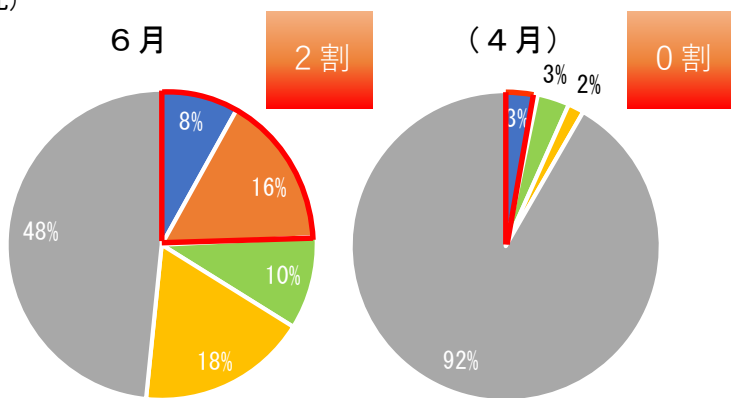
1 原木生産（近畿中国地区）（つづき）

- ・生産状況について、減産していると回答した事業者が約2割であり（4月比2割増）、減産割合も「20%以上」が増加している。
- ・雇用確保のため、素材生産の代替として、造林・保育へ移行（27%）、皆伐から間伐へ移行（27%）している。
- ・また、7月以降も約2割の事業者が減産を実施予定と回答。
- ・8月の時点では、A材は出材量が減少し需要とバランスしたが、B, C, D材は供給過剰。

○生産状況、雇用

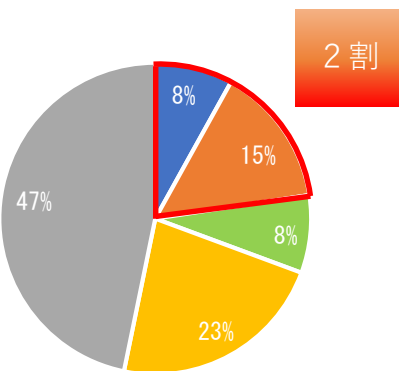
■生産状況（前年同月比）

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上
- 増産
- 変更したいが困難
- 増減なし（未回答含む）

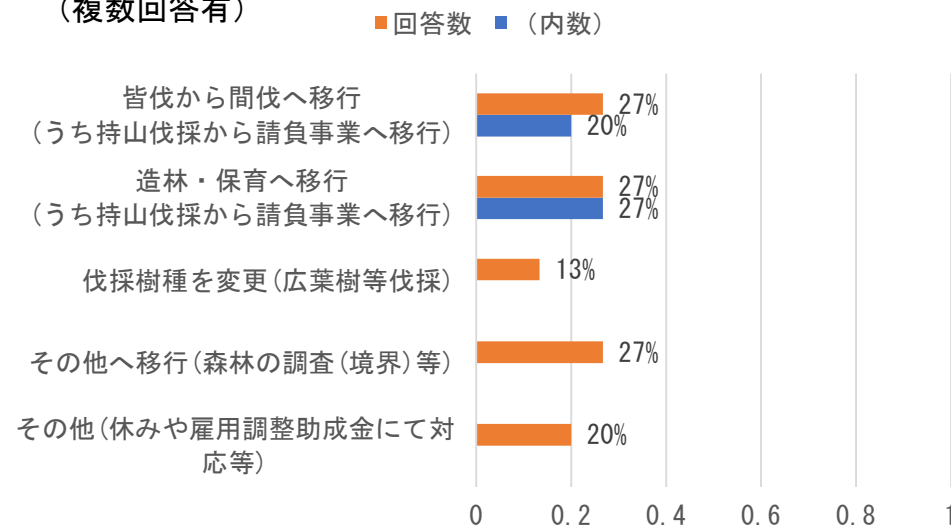


■7月以降の生産状況（予定）（前年同月比）

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上
- 増産
- 変更したいが困難
- 増減なし（未回答含む）



■作業の移行状況（減産を実施している事業者の回答）（複数回答有）



■8月時点の情報

【現状】

- ・販売状況の悪化や7月の長雨に伴い、A材は出材量が減少し、需要とバランス。ただし、B, C, D材は供給過剰。
- ・一部生産を停止する生産者もある一方、通常操業を継続している場合もある。

【見通し】

- ・木材需要の低下に伴い、さらなる原木価格の下落及び原木の滞留が懸念され、減産の必要が出てくるおそれ。

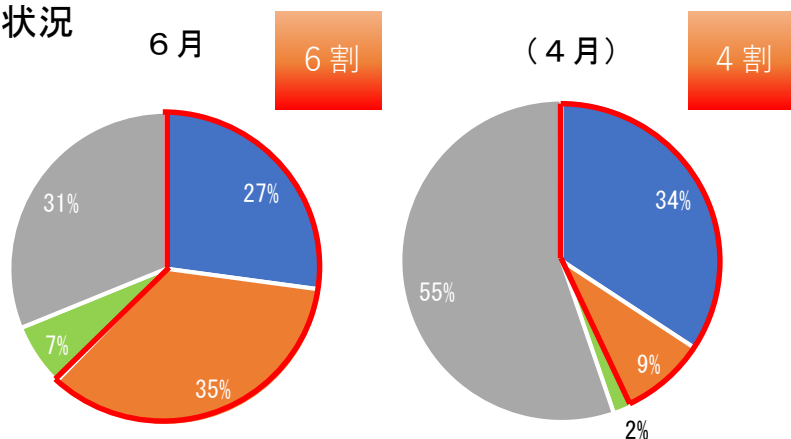
2 製材（全国）

全国の大手の製材工場を対象に6月の状況について調査（回答数199）を実施（4月の回答数は219）。

- ・約6割の工場が製品の減産を実施しており（4月比2割増）、減産割合も「20%以上」が増加している。
- ・このため、約3割の工場が原木の入荷制限を継続（4月比1割増）。
- ・需要の先行き不透明な状況により、入荷制限は継続される見込み。

○製品の生産状況

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上
- 増産
- 増減なし（未回答含む）



■ 8月時点の情報

【現状】

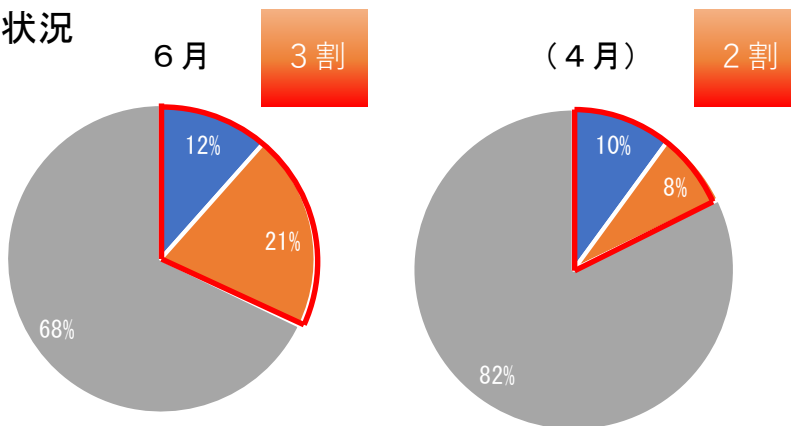
- ・製品生産・販売ともに全体的に減少傾向
- ・製品価格も下落傾向。
- ・特に梱包材・パレットやイベント等の仮設資材の需要が落ち込む。
- ・ホームセンター向け製品の販売は増加。

【見通し】

- ・先行きは不透明。
- ・秋以降、多少需要が回復しても限定的で、現状の傾向が続くとみられる。

○原木の入荷状況

- 制限 20%未満
- 制限 20%以上
- 制限なし（未回答含む）



■ 8月時点の情報

【現状】

- ・減産に伴い一部で入荷制限を実施。
- ・供給側の生産調整や天候の影響による出材量の減少により、原木調達が困難となる地域もみられる。

【見通し】

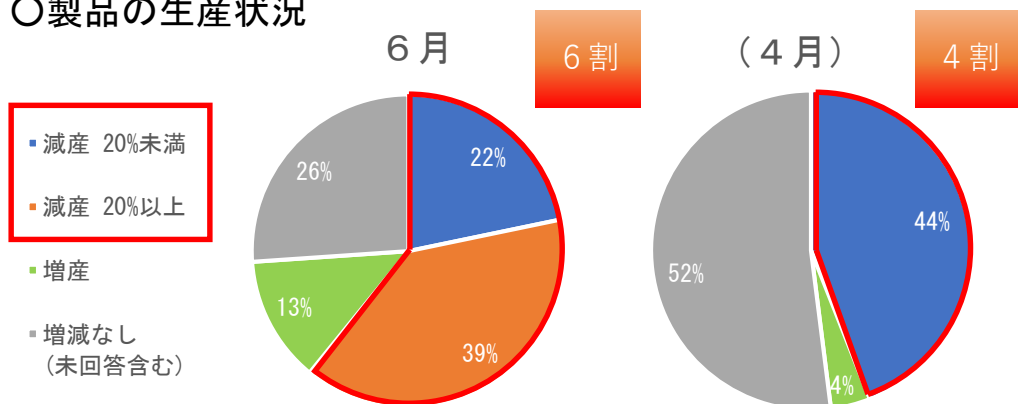
- ・先行きは不透明。
- ・販売状況によっては入荷制限を継続。

2 製材（近畿中国地区）

近畿中国地区の大手の製材工場を対象に6月の状況について調査（回答数23）を実施（4月の回答数は25）。

- ・ 約6割の事業者が製品の減産を実施しており（4月比2割増）、減産割合も「20%以上」が増加している。
- ・ このため、約3割の工場が原木の入荷制限を継続。
- ・ 8月の時点では、原木出材量の低下により入荷状況は悪化。出荷量が回復しなければ原木在庫の減少に伴い減産が必要となる見通し。

○製品の生産状況



■ 8月時点の情報

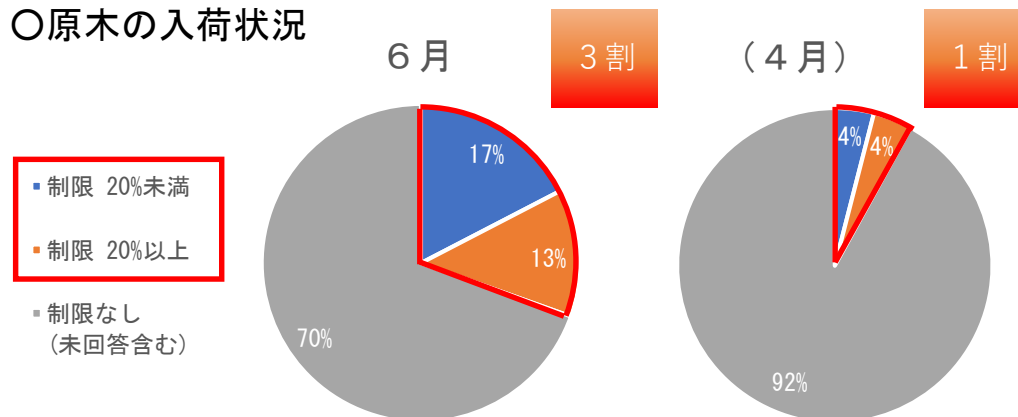
【現状】

- ・ 減産している工場もあれば、通常どおり生産している工場もある。
- ・ 受注状況は悪化。イベント等の仮設資材や梱包材等の出荷が落ち込み厳しい状況。

【見通し】

- ・ 出材量が回復すればフル操業も可能だが、そうでなければ、原木在庫の減少のため、減産が必要。

○原木の入荷状況



■ 8月時点の情報

【現状】

- ・ 原木出材量の低下により、入荷状況は悪化。

【見通し】

- ・ 天候回復により出材・入荷状況はある程度回復すると考えられる。

3 合板（全国及び近畿中国地区）

合板工場を対象に6月の状況について調査（回答数31）を実施（4月の回答数は27）。

全国の状況として、

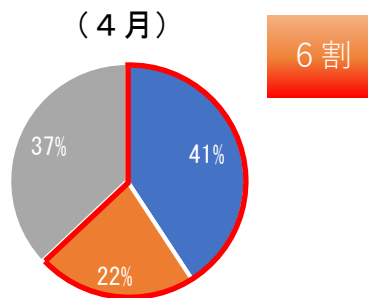
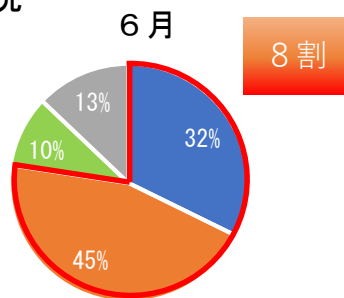
- ・合板の生産状況について、減産していると回答した事業者が約8割であり（4月比約2割増）、減産割合も「20%以上」が増加している。
- ・このため、約5割の工場が原木の入荷制限を継続（4月比1割増）。

近畿中国地区においては、1～2割程度の減産とそれに伴う入荷制限は当面継続の見通し。

○製品の生産状況

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上

- 増産
- 増減なし（未回答含む）



■ 8月時点の情報【全国】

【現状】

- ・製品は前年比1～3割減産。
- ・販売も前年比2割程度減少しており、価格も下落傾向。

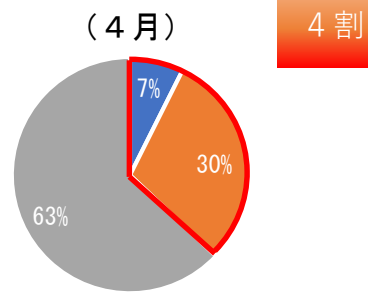
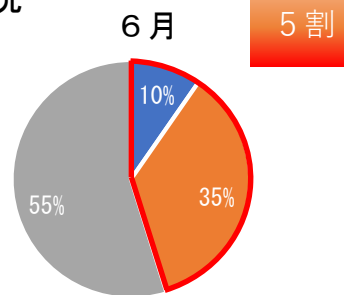
【見通し】

- ・先行きは不透明。
- ・秋まで需要減退が続く見通しであり、当面は減産を継続。

○原木の入荷状況

- 制限 20%未満
- 制限 20%以上

- 制限なし（未回答含む）



■ 8月時点の情報【全国】

【現状】

- ・原木の受入制限を実施（前年比1～3割減）。
- ・一方、安定的に入荷を続けている工場もある。

【見通し】

- ・先行きは不透明。
- ・減産の継続に伴い、原木の受入制限を継続する見込み。

■ 8月時点の情報【近畿中国地区】

【現状】

- ・生産は前年比1～2割減産。価格1～2割下落。
- ・入荷を制限している工場がある一方、安定的に入荷、国産材入荷微増の工場もある。

【見通し】

- ・秋まで需要減退が続く見通し（2割程度）。
- ・減産・入荷制限は当面継続の見通し。

4 集成材（全国及び東北地区）

集成材工場を対象に6月の状況について調査（回答数64）を実施（4月の回答数は64）。

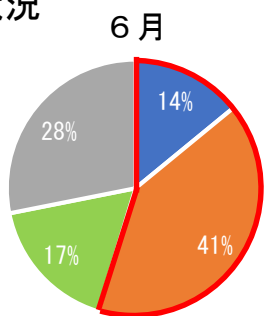
全国の状況としては、

- ・集成材の生産状況について、**減産**していると回答した事業者が**約6割あり**（4月比約3割増）、**減産割合も「20%以上」が増加**している。一方、**約2割**の事業者が**増産**していると回答。
- ・このため**約1割**の工場が**原木の入荷制限を継続**。

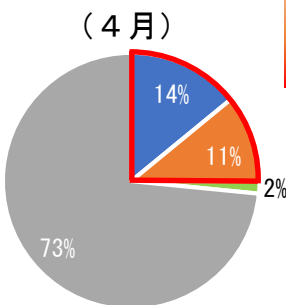
近畿中国地区においては、**前年比2割減の生産**を行っている。今後も当用買いが続く見込み。

○製品の生産状況

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上
- 増産
- 増減なし（未回答含む）



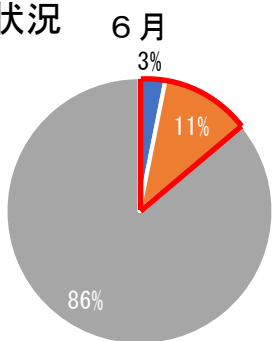
6割



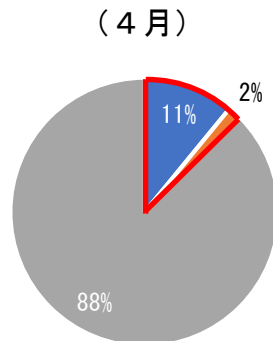
3割

○原木の入荷状況

- 制限 20%未満
- 制限 20%以上
- 制限なし（未回答含む）



1割



1割

■ 8月時点の情報【全国】

【現状】

- ・製品は前年比2～3割減産。
- ・安価な輸入製品との競合により、製品価格が下落傾向。
- ・一方、非住宅物件向け（公共・民間）の構造用集成材の需要が増加しており、高い稼働率を維持している工場もある。

【見通し】

- ・先行きは不透明。受注増は期待できず、当用買いが続く見込み。
- ・一方、非住宅物件向けの需要増により、前年比3割増の受注を見込む工場もある。

■ 8月時点の情報【近畿中国地区】

【現状】

- ・受注低迷のため入荷制限を実施。

【見通し】

- ・先行きは不透明。当用買いが続く見込み。

■ 8月時点の情報【近畿中国地区】

【現状】

- ・国産材は外材より落ち込み大きく、前年比2割減で生産・販売。
- ・国産材は7月の大雨の被害が出ているが、需要が低迷しているため影響は少ない。

【見通し】

- ・先行きが劇的に好転することは見込めず、当用買いが続く。

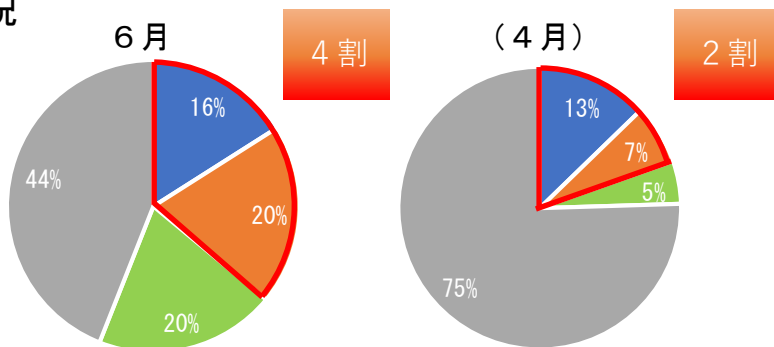
5 チップ（全国及び近畿中国地区）

大手のチップ工場を対象に6月の状況について調査（回答数100）を実施（4月の回答数は102）。
 全国の状況としては、

- ・生産状況について、**減産**していると回答した事業者が**約4割**あり（4月比約2割増）、**減産割合も「20%以上」が増加**している。一方、2割の事業者が増産していると回答。
- ・**約1割**の工場が**原木の入荷制限を継続**（4月から微増）。

○製品の生産状況

- 減産 20%未満
- 減産 20%以上
- 増産
- 増減なし（未回答含む）



■ 8月時点の情報【全国】

【現状】

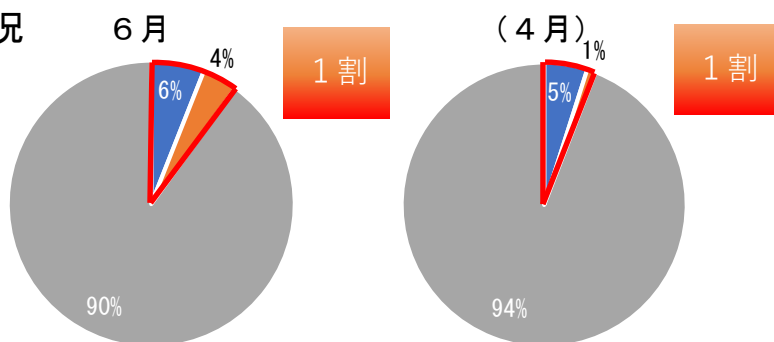
- ・製紙需要の減退により、パルプ用チップは針葉樹、広葉樹とも減産。
- ・燃料用チップの生産・販売は堅調。

【見通し】

- ・製紙は今後も厳しい減産が続く見込み。
- ・燃料用需要は継続。

○原木の入荷状況

- 制限 20%未満
- 制限 20%以上
- 制限なし（未回答含む）



■ 8月時点の情報【全国】

【現状】

- ・パルプ用原木の受入を制限している工場もある。
- ・燃料用原木は地域によってややひっ迫。
- ・合板用原木の一部がチップ用に利用されることもみられる。

【見通し】

- ・パルプ用原木は今後も受入制限を継続する見込み。
- ・木質バイオマス発電施設の増加により燃料用原木は地域によって、調達が一層厳しくなる可能性。

※近畿中国地区の構成員にチップ加工事業者はいないため、地区のコメントはなし。